

令和3年11月24日

人吉市議会議長 西 信八郎 様

総務文教委員会委員長 宮原 将志

「市民と議会の意見交換会」実施報告書

このことについて、「市民と議会の意見交換会」を実施しましたので、人吉市議会「市民と議会の意見交換会」実施要綱第8条第1項の規定により提出します。

開催日時	令和3年11月16日（火）午前10時～午前11時30分
会場	人吉市役所仮本庁舎3階 議会運営委員会室
出席議員	【委員長】 宮原 将志 【副委員長】 宮崎 保 【委員】 西 信八郎、犬童 利夫、松村 太（記録者）
団体名	カルチャーパレスを支える会
参加人数	11名
テーマ	①カルチャーパレスの今後について
意見交換会の概要	<p>「カルチャーパレスの今後について」というテーマで市民と議会の意見交換会を実施した。</p> <p>まず初めにカルチャーパレスを支える会共同代表の鶴上寛治様より「文化の殿堂が一日も早く復活ができるよう、市民の心の糧となるように意見を聴いていただきたいと思います。」と挨拶。続いて宮原将志総務文教委員長から「現在、小ホールの改修工事はまもなく開始される。課題となる大ホールについては大規模改修なのか建て替えなのか、財源はどうするのか様々な観点から検討が必要で、市民の皆さまの意見を反映していきたいので、様々なご意見をお聴きしたい。」と挨拶があり、意見交換会が始まった。</p> <p>初めに2021年7月25日に出された「カルチャーパレスを支える会アピール」が読み上げられ「文化芸術は人間が生きていくうえで必要不可欠なもの」、人吉市カルチャーパレスは「人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点である」こと、文化芸術振興になくてはならない存在であると述べられ、ホール棟の再開を急ぐこと、コミュニティ棟の復旧、建て替えを市民との協働で進めていくこと等を謳われてい</p>

る。その後 129 団体、6115 個人からの署名を宮原委員長へ手渡された。

その後の意見交換では、関係書籍・冊子等により参加関係 4 団体のこれまでの活動の実績・歴史等の説明があった。市民会館時代から現在のカルチャーパレスに至る長い期間にわたる活動の中に、世代間で受け継いだもの、大都市と変わらぬ本格劇が可能になったこと、会員増への取り組みなどを話された。

令和 2 年 7 月豪雨の被災により各種関係団体が成果を発表する場所がないことで、日頃の活動や意欲が低下すること。コンクール・音楽祭など多くの学校行事にも制限がかかり、子どもたちのその年代にしかできない経験の機会を失っている。音楽を通じた学校での盛り上がりができない。展示・舞台発表ができず不便な状況が 2 年続いている。まちの復興は大事、心の復興も同じように大事。これまで普通にできていたことが出来なくなっている。改めて普通にできるようにがんばってほしい。

人吉市の文化協会は県下でも珍しく市の助成を受けず会員の協力だけで成り立っている文化的に高い地域だと思う。その活動拠点がないことにより文化の衰退につながるのは残念だと思っている。一日でも早く活動できるように協力していただきたい。また人吉の現状として「カルチャーパレスがないこと等で文化芸術に触れる機会の格差があると思う。人吉市にいながら文化芸術に触れることができるように考慮していただきたい。」等の意見が出された。

議員からも、球磨郡広域での活動はできないのか。本物の文化芸術に触れること、特に小中学校での体験はこれから先も文化芸術への関心を持つことにつながる。これからもそうした活動を継続していく必要があることは皆様と同じ気持ちでいる。大ホールを含め今後を検討していくために関係団体のこれからの活動について尋ねた。

アーティストの原点と言われる役割も担ってきた。複数の同種の団体と劇団の年間公演計画に参画してきたが、現状では他団体に迷惑かけるので脱退せざるを得ない状況。体育施設と違い、音楽・演劇専門ホールはここにしかなく代替できないので、ここが非常に大事。これらの厳しい活動状況を踏まえ、再開後の使用料も使用者負担増にならないように考えていただきたい。本庁舎機能移転後のコミュニティ棟の使用料についても考慮していただきたい。人口が減少してきている状況もあるので、カルチャーパレスの今後については人吉球磨地域一体となって検討、取り組んでいって欲しい。

文化芸術の必要性や継続性については共通理解ができ、再開に向けた計画では今回のご意見を踏まえ協議していくとの挨拶で閉会した。